



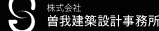
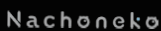
# NILZZ

## RACING FACTORY

### SUZUKA GT 3HOURS RACE

#### 2024 AUTOBACS SUPER GT Round.3 RACE REPORT

カテゴリー	: SUPER GT SERIES 2024 GT300 クラス	公式練習	: 2'01.570 (GT300 クラス 24 位)
エントラント	: NILZZ Racing	公式予選 Q1	: 2'01.872 (GT300 クラス A 組 14 位)
カーナンバー	: 48	公式予選 Q2	: 2'04.707 (GT300 クラス Gr.2 10 位)
マシン名称	: 脱毛ケーズフロンティア GO&FUN 猫猫 GT-R	公式予選 (合算)	: 4'06.579 (GT300 クラス 25 位)
ドライバー	: 井田太陽 / 柴田優作 / 眞田拓海	決勝	: GT300 クラス 22 位 (82 周)
開催地	: 鈴鹿サーキット (三重県)		
開催日	: 2024.6.1~2024.6.2		
天候	: 晴れ (6.1) 曇り (6.2)		
イベント動員数	: 17,500 人 (6.1) / 25,000 人 (6.2)		





SUPER GT シリーズ第 3 戦” SUZUKA GT 3HOURS RACE” が 6 月 1 日から 2 日にかけて、三重県の鈴鹿サーキットで開催された。

今回も時間レースとして開催され、第 3 ドライバーの起用が認められるため、NILZZ Racing は前戦富士大会同様、井田 太陽、柴田優作、眞田拓海の布陣でエントリーした。

### 6 月 1 日 (土) 公式練習

好天に恵まれた予選日。9 時 45 分から公式練習のセッションが行われた。

まず柴田がコースイン。その後井田に交代し、連続で周回した。

セッション中盤は柴田がこまめにピットアウト～ピットインを繰り返し、セッティングを進めて行く。

セッティングが決まり、井田が確認のため周回をした後、セッション終盤は GT300 専有走行終了までの間、眞田が周回し、公式練習は終了。

序盤に柴田が記録した 2 分 01 秒 570 がチームのベストタイムとして記録され、公式練習は GT300 クラス 24 位という結果となった。

### 6 月 1 日 (土) 公式予選

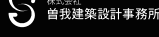
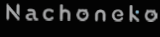
午後に入り、15 時 00 分から行われた公式予選。

前戦の結果により、今回 NILZZ Racing は予選 Q1 を A グループに割り振られた。

予定通り 15 時 18 分から GT300 クラス A グループ予選 Q1 が開始。Q1 アタックドライバーは柴田が担当した。

できる限りクリアラップを取れるよう、セッション開始から 1 分程遅らせてコースイン。

ウォームアップを終え、計測 3 周目に最初のアタックに突入した。





残り時間が2分を切った頃、柴田が計測ラインを通過。2分01秒872でこの時点での3番手タイムを記録する。しかし次のアタックではタイムを縮めることができません。

装着しているタイヤはこの後の予選Q2、決勝レースのスタートタイヤとして使用する事となっているため、タイヤを温存するために、柴田は予選アタックを終了した。

その後、他車のタイム更新があり、グループ予選Q1Aは14番手という結果となった。

これにより次の予選Q2はグループ2での出走が決定した。

続く予選Q2グループ2は井田が担当。

セッション開始から少しタイミングを遅らせてコースインする井田。

ウォームアップを終え、残り時間が半分を過ぎたところで井田が最初の計測ラインを通過。

井田の最初のアタックは2分04秒926を記録。この時点でのグループ首位、合算タイムでも2番手となるタイムを記録する。

次のアタックで2分04秒707とタイムを縮めたが、井田も今後のタイヤ温存のため、時間はまだ残っていたが早めにアタックを終了。

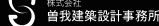
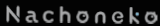
井田はこの予選Q2グループ2は10番手となり、合算タイムが4分06秒579でNILZZ Racingの第3戦予選はGT300クラス25位という結果となった。

## 6月2日(日) 決勝

厚い雲覆われた決勝日の鈴鹿サーキット。

ウォームアップ開始直前より雨が降り始め、コース上は一気にウェットコンディションへと変化してしまう。

各チーム慌ただしくウェット路面への対応していく中、NILZZ Racingは、決勝中はコンディションが回復すると判断。



決勝で使用するドライタイヤの慣らしを中心にピットアウト～ピットインを繰り返し、わずか3周のみの走行に留めた。その後、スターティンググリッドに着く頃にはコンディションは完全に回復。

上空には太陽も出て、コースが一気に乾いたことで、非常に湿度の高いコンディションとなった。

13時38分、3時間のレースがスタート。スタートドライバーを担当した柴田はポジションをキープし周回を重ねる。タイヤを労わりながらのドライブながら、スタートから1時間以上走行。

ピットインを行う32周終了時にはGT300クラス16位まで順位を浮上させた。

今回も義務給油回数が2回と定まっているため、1回目の給油とタイヤ交換を行い、次のスティントを担当する眞田に引き継いだ。

先程のピットインで作業違反があったとして、途中ドライブスルーペナルティを消化するも、2回目のピットストップ直前にはGT300クラス19位まで順位を上げ、最終スティントを井田に託した。

コース復帰時、レースの残り時間は40分を切り、井田はレース終了まで順調に周回を重ねていた。

しかし残り時間10分を切ったところで井田から”ローフェューエル”と無線が入る。

想定以上に燃料の消費量が多かったのか、残燃料の警告が出てしまった為、緊急でピットイン。給油を追加で行った。

緊急のピットインを行ったが、これまで築いていた後方車両とのマージンがあり、順位の変動なくコースへ復帰。

16時40分20秒、NILZZ Racingは3時間レース終了のチェッカーフラッグを受ける。

結果、82周を走破し、GT300クラス22位で今季ベストリザルトを更新し、今回も完走を果たした。

色々難しいレースではありましたが、力強い走行を見せて、次戦につながるレースではないかと感じました。

次戦第4戦までの間、約2ヶ月のインターバルがありますので、入念に準備を整えて、次戦以降更に力を蓄えていきます。

引き続き皆様のご支援、ご声援を賜ります様、よろしくお願いたします。

